
心やすらかな

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心やすらかな

【コード】

N8202L

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

心やすらかな時を過ごしたいと利晴は考えた。

心やすらかな時を過ごしたいと利晴は考えた。

退職金で今まで買えなかった贅沢品を多数得たのだが、物欲が物欲を呼び、落ち着きのない日々を過ごしていた。

「もう、このあたりで、いいだろう」

同じタイプのデジカメを三つほど買ってしまったとき、そう決心した。

二五十のスクータを買ったときも、一年ほど乗り回したが、遠出することもなく、近所しか走っていなかった。原付きよりもより遠くへ、そして楽に行けると思ったのだが、目的地がなかった。

今は、ママチャリで歩道を走っている。

いずれも欲しかったものだ。買う前は刺激的だが、買った瞬間は罪悪感に襲われた。

こんなところで無駄遣いすると、老後の一日一日が苦しくなる。

あの時買っていなければ金に困らずにすんだのではないかと、後悔を予測した。

しかし、人生は楽しまなければ損で、今まで我慢して働いてきたのだから、褒美が欲しかった。

そして今、物欲で満ちた頭の血も引き、心は違うものを求めていることを知った。

それは、心やすらかな時を過ごす、ということだった。

利晴の頭がクールダウンしたとき、思い出したのが、あの原っぱだった。それは少年の日に遊んだ場所で、そこに立ち、残った人生をもう一度考えてみたかったのだ。

利晴は久しぶりにスクータに乗り、生まれ育った町まで走った。

心やすらかな時の流れに乗れそうなドライブだった。

当然そんな原っぱなど残っているわけがないだろうとは思っていたが、シヨッピングモールになっているとは想像外だった。

しかし中庭があり、何となく原っぱを連想させた。おそらく同じ場所だろう。ここで幼なじみとチャンバラごっこをしたり、紙芝居を見た。

利晴はベンチに座り、穏やかで心やすらぐ思いに浸ろうとしたとき、デジカメという看板文字を見てしまった。

「心やすらぐデジカメが欲しい」

と、無防備な発想が生まれた。それは、心やすらかなというキーワードが、防御をすんなり通したのだ。

利晴は、心やすらかなデジカメはどれかと、陳列台を物色し始めた。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8202/>

心やすらかな

2010年10月10日21時49分発行